

# Hem21 NEWS

公益財団法人  
ひょうご震災記念21世紀研究機構  
ニュース

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である  
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

令和4年(2022) 9月

Vol.95

## CONTENTS

- 1 コロナ禍での地域支援活動の実際
- 2 令和3(2021)年度研究戦略センター研究成果の紹介
- 3~4 情報ひろば
- 5 HAT神戸掲示板
- 6~8 人と防災未来センター MirAi

管理部

研究戦略センター

人と防災未来センター

こころのケアセンター

## 兵庫県こころのケアセンター コロナ禍での地域支援活動の実際

兵庫県こころのケアセンターは、国内外の災害や事件・事故で被害を受けた方への支援を行うなど、関係機関と調整の上、個人や組織へのこころのケアに関する助言を行っています。

令和3(2021)年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、当センターの機能を発揮すべく工夫し鋭意取り組みを進めてきました。地域支援活動として、①東日本大震災や熊本地震等への被災地支援の継続や遺族支援への助言指導、②大規模地震に備えた全国規模の防災担当職員向けの研修講師、③行政機関や医療機関等への長期化する感染症危機対応を惨事ストレスと捉え、現地やオンラインで個別面接や組織対応などを実施しました。

また、大規模災害発生時に精神科医療および地域精神保健活動の支援を行う専門チームとして、災害派遣精神医療チーム「ひょうごDPAT」が平成26(2014)年に発足しました。以後、「ひょうごDPAT」は、多様な保健医療活動チームとの連携を含め、災害時精神保健医療のマネジメントも行えるよう資質向上を目的として、兵庫県内精神科医療機関や行政機関等を対象とした研修を継続実施しています。

令和3年度の研修は、コロナ禍でも参加しやすい終日オンライン研修を初めて実施し、災害時に使用する通信機器やクロノロ(掲示活動記録)演習、机上演習のほか、感染症対応演習も盛り込みました。その結果、155人と平成30(2018)年度に次ぐ参加者数となりました。

さらに、阪神・淡路大震災以降平成7(1995)年から実施している近畿府県合同防災訓練に、「ひょうごDPAT」として参加しました。淡路島を拠点に、各保健医療活動チームと共に活動拠点本部の設置や先遣隊活動を行い、関係機関との連携を図りました。

その他、相談室と診療所では、トラウマやPTSD(心的外傷後ストレス障害)等に関する専門相談や治療を実施しており、最近の傾向として、事件・事故以外に、虐待やDV、性被害といった複数のトラウマを一人で抱え機能不全に陥った方など、右肩上がりで患者が増えています。トラウマに特化した専門的な治療の社会的有用性は高い状況です。PTSD症状により、就労や対人関係等のさまざまな生活上の問題を抱える人も少なくないため、治療と並行して、社会資源の活用や地域の支援機関につなげるなど、安心安全な環境整備も支援しています。



近畿府県合同防災訓練



ひょうごDPAT研修会

### こころのケアの主な活動実績

- JR福知山線脱線事故(H17年)
- 新潟県中越沖地震災害(H19年)
- 東日本大震災(H23年~)
- 西日本豪雨災害(H30年~)
- 能登半島地震災害(H19年)
- 台風第9号災害(H21~24年)
- 熊本地震(H28年~)
- 新型コロナウイルス感染症に関する危機対応(R2年~)
- スマトラ島沖地震における津波災害(H17年)
- 中国四川大震災(H20~23年、H25~26年)
- ニューゼaland地震(H23年)
- チリ大地震(H27年~29年)

# 令和3(2021)年度研究戦略センター研究成果の紹介

## 「南海トラフ地震に備える政策研究」



主任研究員 吐合 大祐

本研究では、平成30(2018)年度から令和3(2021)年度までの4年間にわたり、南海トラフ地震に備えるための政策の在り方について、6つの部会・分科会に分かれて研究を進めてきました。各部会・分科会の取り組みと研究成果について、簡単に説明します。

「災害シナリオ部会」では、『長期停電』に注目し、南海トラフ地震をはじめとする大規模災害によって長期停電が発生するメカニズムをシミュレーションと定量的手法を用いて明らかにしました。また長期停電が、熱中症や医療体制の毀損によって生じる「災害関連死」に及ぼすインパクトについても定量的手法により解明しました。

「復興組織・体制分科会」では、大規模災害に備えるための『平時/非常時での国(中央政府)と自治体の関係の在り方』を、都道府県・市区町村へのヒアリング調査や資料分析を基に検討しました。それに加えて、高知県や三重県など津波被害が予想される自治体へのヒアリングを行うなど、被災が予想される自治体の防災体制や取り組みに関する現状分析も行いました。

「災害リスクファイナンス分科会」では、南海トラフ地震発生によって生じる経済被害の推計、また発生後に必要となる復興財政の分析に取り組みました。分析結果からは、南海トラフ地震発生時の経済被害の縮小は労働資本の移動を考慮すべきこと、また民間部門の復興需要を喚起するために、公的セクターが主導して経済特区の指定など既存の枠組みを超えた政策対応が必要であること等が明らかになりました。

「官民連携分科会」では、『大規模災害の発生に備えるために、官民部門が連携して防災体制を構築すべき』との観点から、兵庫県南あわじ市の事例分析や、民間企業への防災意識アンケートの分析などを中心に、防災における官民連携体制の現状分析を行いました。今回の分析からは、より機能性のある官民連携体制の構築には、民間企業の主体的な取り組みを支援・促進するような制度や仕組みが必要ということが明らかになりました。

「個人とコミュニティ分科会」では、防災業務におけるモデル自治体に焦点を当て、避難行動要支援者の個別避難計画の策定手続きの分析や、個別避難計画策定に必要な視点の検討に取り組みました。この分析結果を踏まえ、個別避難計画の策定手続きのモデルとなる業務フローを提示し、必要な対応について言及しています。

「都市と住宅分科会」では、東日本大震災被災地のデータを事例に用いた『AIシミュレーション』の推計によって、理想的な復興シナリオを作り出す政策条件の析出に取り組みました。今回の分析からは、復興前期には関係人口創出や地域経済振興を、復興後期には住宅やまちづくり、コミュニティ支援に関する政策に注力すれば『良い復興シナリオ』が出現しやすいことが明らかになりました。

当機構では、上記の研究成果に関する論文と、各部会・分科会における考察を基に作成した「政策提言」を最終報告書として取りまとめ、公表する予定です。具体的な研究成果にご関心をお持ちの方は、今後公開予定の最終報告書をご覧ください。

## 「広域経済圏活性化による経済成長戦略」



主任研究員 朴 延

本研究の目的は、東京一極集中のメカニズムを新たな視点から解明し、地域再生を加速するための戦略的都市・地域政策を具体的に提示することです。その際、都市政策の最前線で議論が行われている「第2層都市群を核とした広域圏政策」に着目し、京阪神大都市圏を核心とする関西広域圏を対象に、本年3月、イノベーション戦略と空間戦略を統合した戦略的都市・地域政策の提言を最終報告書として取りまとめました(報告書全文は当機構ホームページ「研究戦略センター」の「研究成果」に掲載)。

報告書の第1部「広域経済圏の視点と関西圏：東京一極集中の解剖」では、90年代に入り、企業がデジタル化、グローバル化に対応できない「市場の失敗」と政府が社会経済の変化に対応した政策を実行できない「政府の失敗」という2つの「負のロック・イン(社会制度の硬直化)」により、東京一極集中は国民経済発展の弊害となっていることを本研究の基本視点として明らかにしました。この「負のロック・イン」を解除し、新たな社会経済システムを構築しなければなりません。このため、第2部「イノベーション関西に向けた研究報告」では、非首都圏で高い発展ポテンシャルを持つ第2層都市としての関西圏を対象に、市場の健全化・企業の新陳代謝を加速する「スマート戦略」、都市間の

広域連携を促進する「空間戦略」、人への投資・価値創造を支える人づくりを目指す「人財戦略」の3つの戦略を提案し、英国や韓国の事例研究も含め、多彩な視点から考察しました。第3部「政策提言：『イノベーション関西：関西は広域で結束せよ』」では、前述の3戦略を7つの戦術にブレイクダウンし、関西広域圏連合への広域的な都市計画権限の付与や都心等での多様な用途の混在による創造的界隈の形成など関西の行政・企業が取り組むべき具体的な政策提言を取りまとめました。

政策提言では、2030年に持続可能で成長する関西、「イノベーション関西」の実現を目標としており、2025年の大阪・関西万博を飛躍のための重要なステップと捉えています。また、本研究会では別途「大阪湾ベイエリア構想分科会」を設置し、万博などによって政策的にも注目度の高まった大阪湾ベイエリアの再整備の方策についても昨年3月に政策提言を取りまとめました。

今後、これらの提言を踏まえて、行政(国・関西広域連合・府県)は失敗を恐れることなくチャレンジの「場」をつくり、企業は大学や行政と共に関西広域圏の発展に向けた取り組みの改革を迅速に実施することが期待されます。

## 情報ひろば

### 兵庫県こころのケアセンター

#### こころのケアシンポジウム参加者募集

「複雑性PTSD」をテーマにした基調講演とパネルディスカッション、兵庫県こころのケアセンターの研究報告を行います。

- 日時 = 12月14日(水)13時30分～16時45分
- 会場 = 兵庫県こころのケアセンター 大研修室
- プログラム
  - 第1部 研究報告  
須賀 楓介(兵庫県こころのケアセンター 主任研究員)
  - 第2部 基調講演  
「複雑性PTSDの理解と支援ー日常臨床における我流・実践の紹介」  
原田 誠一(原田メンタルクリニック 院長)
  - 第3部 パネルディスカッション  
テーマ 「複雑性PTSD」  
パネリスト  
原田 誠一(原田メンタルクリニック 院長)  
亀岡 智美(兵庫県こころのケアセンター 副センター長 兼研究部長)  
須賀 楓介(兵庫県こころのケアセンター 主任研究員)

- 定員 = 会場50名およびZoom配信150名(予定)
- 参加費 = 無料
- 申し込み方法 = 所定の参加申込書(※)に必要事項を記入の上、郵送、FAX、Eメールで下記申し込み・問い合わせ先へ。先着順で受け付け、定員になり次第締め切ります。

※下記ホームページからプリントアウトできます

#### 【申し込み・問い合わせ】

兵庫県こころのケアセンター 研修情報課  
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2  
TEL 078-200-3010 FAX 078-200-3017  
Eメール kensyu@j-hits.org  
<https://www.j-hits.org/>  
※Zoom配信希望者は原則Eメールでお申し込みください

### 研究戦略センター

#### 研究情報誌「21世紀ひょうご」 第33号発行のお知らせ

現代社会の課題を的確に捉え、専門的立場から課題を分析・紹介し、具体的な提案を行う情報誌です。11月発行予定の第33号の特集では、「コロナで変わる社会」をテーマに取り上げます。公衆衛生面の課題や今後の留意点、企業と家計の行動変化や、若者・家族の在り方、DX等の進展で変わりゆく働き方など、コロナ禍が現代社会に与えた影響と今後のあるべき社会像について幅広い観点から考えます。

#### 【内容】

■ 巻頭言 (公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 研究戦略センター研究統括 大西 裕

■ 特集 「コロナで変わる社会」

〈執筆者〉

関西大学社会安全学部・社会安全研究科教授  
高鳥毛 敏雄  
近畿大学経営学部／大学院商学研究科教授  
高橋 一夫  
神戸大学経済経営研究所教授 家森 信善  
兵庫教育大学大学院生活・健康・情報系教育コース  
准教授 永田 夏来  
神戸大学大学院法学研究科教授 大内 伸哉

#### ■トピックス

- 第21回アジア太平洋研究賞(淡路会議)受賞論文
- 「広域経済圏活性化による経済成長戦略ー2025年大阪・関西万博に向けたイノベーション関西構想ー」研究成果報告会

▶ B5判 約120ページ

▶ 発行 = 年2回

※既発行号等については、当機構のホームページをご参照ください  
<https://www.hemri21.jp/research/research-the21-hyogo/>

▶ 購読料 = 800円(送料別途)

※定期購読をされる場合は、年間購読料1,600円(送料込み)

#### 【申し込み・問い合わせ】

研究戦略センター学術交流部交流推進課  
TEL 078-262-5713 FAX 078-262-5122  
Eメール gakuju@dsri.ne.jp

## 第11回自治体災害対策全国会議

阪神・淡路大震災以後、世界各地でさまざまな大災害が多発する時代を迎えています。大災害は、その都度異なる形で襲ってくることから、これに的確に対応できるよう、全国の自治体職員が、自治体の災害応急対策や復旧・復興への取り組みなどを情報共有しつつ、今後予想されるさまざまな災害への備えについて考える「自治体災害対策全国会議」を開催します。

長期にわたる火砕流や土石流により地域社会に大きな影響をもたらした雲仙普賢岳噴火災害から31年目を迎える中、全国各地で災害が頻発し、新型コロナウイルス感染症による複合災害への備えも必要になるなど、地域防災力を高めることがますます重要になっています。このため、火山災害をはじめとする自然災害による被害の軽減に向けて、自主防災組織の活性化や地区防災計画の作成など、地域と行政が連携した事前減災の効果的な取り組みについて考えます。

- 日時＝10月26日(水)、27日(木)
- 場所＝島原文化会館(長崎県島原市内一丁目1177-2)
- プログラム

### 【1日目】

- 基調講演Ⅰ「火山噴火の特徴と噴火予知の現状を踏まえた火山防災の課題」  
清水 洋(九州大学名誉教授、火山噴火予知連絡会会長)
- 基調講演Ⅱ「地域防災・減災の新展開ーまちづくりに防災・減災を織り込む」  
室崎 益輝(神戸大学名誉教授、兵庫県立大学名誉教授)
- 基調報告「雲仙普賢岳噴火災害の教訓と地域防災力の向上」  
古川 隆三郎(島原市長)
- 現地視察 雲仙普賢岳定点、雲仙岳災害記念館(がまだすドーム)(予定)

### 【2日目】

- 特別報告「国の火山防災対策の動向等について」  
朝田 将(内閣府政策統括官(防災担当)付参事官)

### ○パネルディスカッション

「地域コミュニティにおける災害対応力の強化」

座長

瀧本 浩一(山口大学大学院創成科学研究科准教授、消防庁消防大学校客員教授)

報告者

- ① 「災害対応がバナンスと地域防災力強化への取組～長野県庁における災害への備えと対応の10年～」  
柏原 稔(長野県危機管理防災課火山防災幹)
- ② 「鹿児島市の災害対応と地域防災力の強化～桜島大規模噴火に備えて～」  
中島 智広(鹿児島市危機管理課課長)
- ③ 「住民主体の自主防災の取り組み」  
蔭原 政徳(松山市高浜地区自主防災連合会会長、高浜公民館館長)
- ④ 「地区防災活動の必要性」  
旭 芳郎(特定非営利活動法人日本防災士会長崎県支部支部長)

### ○総括討議

五百旗頭 真 自治体災害対策全国会議事務総長  
(ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長)  
室崎 益輝 自治体災害対策全国会議企画部会長  
(神戸大学名誉教授、兵庫県立大学名誉教授)  
瀧本 浩一 パネルディスカッション座長

※プログラム内容は変更する場合があります

- 定員＝200人(自治体職員に限らずどなたでも参加していただけます)
- 参加費＝無料
- 申し込み方法＝10月14日(金)までに、当機構のホームページに掲載している「第11回自治体災害対策全国会議チラシ」をダウンロードし、FAXまたはEメールで下記へお申し込みください。

### 【申し込み・問い合わせ】

研究戦略センター 交流推進課

TEL 078-262-5713 FAX 078-262-5122

Eメール zenkoku@dri.ne.jp <https://www.hemri21.jp/>

思いに色を、カタチを与える

写真集・詩集・自費出版の  
お問い合わせは

神戸新聞総合印刷  
神戸新聞総合出版センター

<https://www.kobenp-printing.co.jp/>

# HAT神戸 掲示板

## 兵庫県立美術館

### 特別展「ボストン美術館所蔵 THE HEROES 刀剣×浮世絵 - 武者たちの物語」

勇壮な英雄たち、ひるがえる刀剣、恐ろしげな怪異。ササノオノミコトとヤマタノオロチの戦いや源平合戦、そして上杉謙信と武田信玄の合戦など、軍記物語や武勇伝説に見られる英雄たちの姿を描いた武者絵は、浮世絵の祖と呼ばれる菱川師宣の時代から多くの浮世絵師によって手がけられてきました。

また、そうした武者絵と共通するイメージは、刀剣の鐺つばのデザインとしても使用されます。

本展覧会では、世界最高水準の日本美術コレクションを誇るボストン美術館の所蔵品から、武者絵118点、武者絵と共通のイメージがデザインされた刀剣の鐺27点、英雄たちの活躍を彩る重要な要素である刀剣20口を厳選して展示します。また、武者絵の世界をより分かりやすくご紹介するため、国内コレクションからも刀剣、浮世絵を特別出品します。

江戸時代の人々が熱狂した英雄たちの物語をぜひお楽しみください。

■会期 = 9月10日(土)～11月20日(日)

■観覧料 = 一般1,800(1,600)円、大学生1,400(1,200)円、高校生以下無料、70歳以上900(800)円、障がいのある方(一般)450

(400)円、障がいのある方(大学生)350(300)円

※( )内は20名以上の団体料金

※一般以外の料金には要証明

◎休館日 = 月曜日 ※9月19日(月・祝)と10月10日(月・祝)は開館、9月20日(火)と10月11日(火)は休館

◎開館時間 = 10時～18時 ※入場は閉館の30分前まで

※展覧会についての詳細は兵庫県立美術館ホームページ(<https://www.artm.pref.hyogo.jp/>)にてご確認ください

◎問い合わせ

TEL 078-262-1011



①

①歌川国芳「小子部栖軽豊浦里捕雷」  
天保5～6年(1834～35)頃  
Bequest of Maxim Karolik

②「土蜘蛛退治図 銘 松涛軒吾竹貞勝(花押)」  
明治時代(19世紀)  
Charles Goddard Weld Collection



②

Photographs©Museum of Fine Arts, Boston

## JICA関西

### ◆食べることから始める国際協力!

#### JICA関西食堂の月替わりエスニック料理

JICA関西1階の食堂(カフェテリア)は、どなたでもご利用できます。完全禁煙で、子供椅子もご用意していますので、お子様連れも歓迎です。月替わりエスニック料理もご好評いただいております!

9月と10月は、それぞれの月に記念日を迎えるウズベキスタン共和国(中央アジア)とトルコ共和国(西アジア)の料理をご提供します。ウズベキスタンは、1991年8月31日に行われたソ連からの独立宣言により9月1日を独立記念日としています。また、トルコは1923年10月29日に行った建国宣言により、10月29日を建国宣言記念日としています。



写真はウズベキスタン料理

月替わりエスニック料理の詳細と写真はこちら→

JICA関西食堂

<https://www.jica.go.jp/kansai/office/restaurant/index.html>



■営業時間 = (昼)11時半から14時まで(夜)17時半から21時まで  
※各終了30分前ラストオーダー

コロナの状況を踏まえて営業時間に変更になる可能性があります。

■定休日 = 年中無休(年末年始を除く。)

(注)詳しい休業日についてはJICA関西ホームページをご確認いただくか、下記までお問い合わせください。

◎問い合わせ

JICA関西(独立行政法人国際協力機構関西センター)総務課

TEL 078-261-0341 FAX 078-261-0342

Eメール [jicaksic-event@jica.go.jp](mailto:jicaksic-event@jica.go.jp)

その他、詳細はJICA関西ホームページをチェック!

→ <https://www.jica.go.jp/kansai/>

## 日本赤十字社 兵庫県支部

### 「ぼうさいこくたい2022」に日本赤十字社も参加します!

「第7回防災推進国民大会(ぼうさいこくたい2022)」が近畿圏では初めてHAT神戸を中心とするエリアで10月22日(土)、23日(日)10:00～17:00(2日目は15:30まで)の2日間開催されます。日本赤十字社も会場での出展や、下記の救急法競技大会を開催します。



ぼうさいこくたい2022×青少年赤十字創設100周年記念  
兵庫県赤十字救急法競技大会

■日時 = 10月22日(土) ■時間 = 10:00～16:00(予定)

■場所 = 国際健康開発センター(I.H.Dセンタービル)9階国際会議室(神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1)

いのちと健康を守る赤十字活動は、皆さまからお寄せいただく活動資金で成り立っています。

●郵便局・ゆうちょ銀行からご協力いただけます

口座記号番号: 01110-0-1136

口座加入者名: 日本赤十字社兵庫県支部

※窓口で取り扱いの場合、振込手数料は無料です

◎問い合わせ

TEL 078-241-8921(振興課)

赤十字 兵庫

検索



日本赤十字社 兵庫県支部  
Japanese Red Cross Society

## 「夏休み防災未来学校2022」を開催しました

人と防災未来センターでは、子どもから大人まで誰もが楽しみながら防災・減災について学ぶことができる「夏休み防災未来学校」を7月22日(金)から8月31日(水)まで開催しました。本年度は、新型コロナウイルス感染症対策を徹底する形で、コロナ禍前のように実際に会場で参加いただくリアル会場プログラムを実施するとともに、コロナ禍で始めたオンライン配信プログラムも行いました。

**1～7**〈リアル会場プログラム〉 **8～11**〈動画配信プログラム〉\* **12**〈企画展〉

\*「夏休み防災未来学校」サイト(<https://hitobou.com/event/summer/>)からいつでもご覧いただけます

### 1 東館3F BOSAIサイエンスフィールド スペシャルツアー

令和3(2021)年にリニューアルオープンした「BOSAIサイエンスフィールド」をアテンダントによるスペシャルツアーで巡り、「風水害」と「地震と津波」それぞれについて、災害の発生する仕組みや被災したときの避難について学んでいただきました。



### 2 ハザードマップ読み解きミッション!

「BOSAIサイエンスフィールド」の「ミッションルーム(住居)」で、風水害発生時の避難行動を学んだ上で、ハザードマップの見方を学習。参加者自身が住んでいる地域のハザードマップをそれぞれ確認し、危険箇所や避難場所などを基本から学んでいただきました。



### 3 減災グッズお買いものミッション!

「BOSAIサイエンスフィールド」の「ミッションルーム(コンビニ)」で、災害時に起きるトラブルに対応するためのグッズをコンビニの商品棚から見つけ出すプログラムを実施しました。身近なものを工夫して使うことで非常時に役立つことがあるなど、災害時の備えや知恵を学んでいただく機会となりました。



### 4 サバイバル!手作りラジオに挑戦しよう!

ダンボールやクリップなど身の回りのものを使って、電池を使わないシンプルなラジオを手作りしました。完成後、実際にラジオを聞くことができた時に歓声を上げる様子が印象的でした。ラジオを使ったことがない参加者もあり、ラジオが非常時にも役立つことを改めて知っていただく機会にもなりました。



### 5 地震の周期を学ぶ ゆらゆら3兄弟をつくらう!

紙パックやペットボトルのキャップなど身近な素材を使って、地震動の周期を学べる簡単な装置を手作りしました。小学1年生から参加され、楽しい工作をきっかけとして地震について学んでいただきました。



### 6 ペットボトル地震計をつくらう!

京都大学阿武山観測所の協力を得て、ペットボトルや乾電池などを使って本物と同じ仕掛けのペットボトル地震計を工作しました。実際に完成した地震計で机の揺れを用いて波形を取り、地震計の原理を学んでいただきました。



### 7 「在宅避難」て何?避難生活のノウハウを学ぼう!!

近年、災害発生時に避難所に避難するだけでなく、自宅を居場所とする「在宅避難」という方法を耳にするようになりました。「在宅避難」をするためには、どのような備えが必要なのかを食やトイレなどの例を挙げて幅広く学んでいただきました。同伴した保護者の方も熱心にメモを取って聞いていました。



### 8 1.17災害伝承ポイントを見つけて、調査しよう!

7月22日から公募を開始した「みんなでつくる1995.1.17 伝承ポイントマップ」の関連動画を公開しました。リポーターが実際に自分でみつけた「1995.1.17 伝承ポイント」へ足を運び、その伝承ポイントについて調べて投稿する様子を撮影しています。この動画を見た方は、ご自身知っている「1995.1.17 伝承ポイント」をご紹介ください。投稿方法など詳細は、特設サイト(<https://hitobou.com/event/117map/>)でご確認ください。



### 9 発見! HAT神戸の謎・不思議 街の歴史を振り返ってみよう!

リアル会場プログラムとして実施した「発見! HAT神戸の謎・不思議 街の歴史を振り返ってみよう」の一部をアーカイブ映像で紹介しています。道路や公園にあるオブジェや植栽など街の様子を写した写真や、現在と昔の地図を比較して街の変化を見ることで、当センターが所在するHAT神戸がどのような街なのかを改めて知る機会となりました。



### 10 なんでもつかめる?ロボットハンドをつくってみよう!

ペットボトルや風船などを使って、自由に形を変えて物をつかむロボットハンドを作るワークショップ動画を公開しました。災害時の救助等でも活躍しているロボットを身近に学んでいただけます。



### 11 地震サイエンス やってみよう! 断層実験

小麦粉とココアパウダーで地層を再現した装置を使って、圧力がかかることで断層ができる様子を観察する実験動画を公開しています。装置の作り方も紹介しているので、実際に家で実験していただけます。



### 12 ひとぼう開設20周年 チラシでふりかえる20年の歩み

当センターは今年4月、開設20周年を迎えました。この20年を振り返る企画展として、これまで取り組んできた企画展やイベント等のチラシを防災未来ギャラリーで展示しました。



## 新任震災資料専門員紹介

4月に震災資料専門員として着任いたしました、成尾春輝(なるお はるき)と申します。

私は阪神・淡路大震災後に生まれたため、震災の経験はありません。ですが、兵庫県立舞子高校環境防災科への進学をきっかけに、災害について関心を持つようになりました。その後、進学した広島大学では東日本大震災で発生した広域避難について研究し、兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科では、平成30(2018)年7月豪雨の被

災地で支援活動に取り組みながら、災害後に被災者が抱える「申し訳なさ」について研究していました。

震災資料専門員として、保存されている震災資料に込められた思いやメッセージを大切にしながら、阪神・淡路大震災の記憶を同世代や次の世代へと継承するために尽力します。どうぞよろしくお願いたします。



(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

## 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2  
観覧案内・予約 / TEL 078-262-5050 <https://www.dri.ne.jp/>

#### 開館時間

9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)  
※7月～9月は9時30分～18時(入館は17時まで)  
※金曜、土曜は9時30分～19時(入館は18時まで)

#### 入館料金

大人：600円(450円) 大学生：450円(350円)  
東館のみ観覧の場合  
大人：300円(200円) 大学生：200円(150円)  
高校生、中学生・小学生：無料  
※( )内は20名以上の団体料金  
※障がい者、70歳以上の高齢者割引有  
※毎月17日は、入館無料  
(17日が休館日の場合は、翌18日となります)

#### 休館日

毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月31日と1月1日  
※ゴールデンウィーク期間中(4月29日から5月5日まで)は無休  
※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

#### 交通

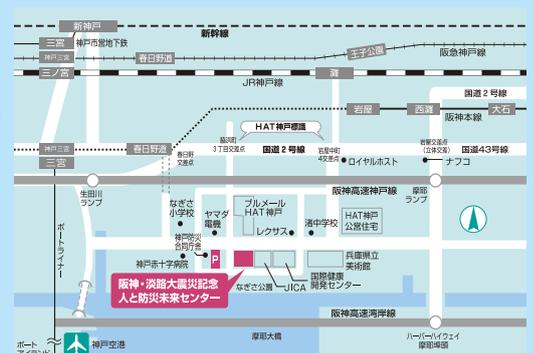
##### 鉄道

- ・阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
- ・JR「灘」駅南口から徒歩12分
- ・阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分

##### バス

- ・三宮駅から約15分
- ・阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
- ・阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
- ・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

●有料駐車場あり ●バス待機所(予約制/無料)あり



## 令和4(2022)年度春期 災害対策専門研修マネジメントコースを開催しました

人と防災未来センターでは、地方自治体職員などを対象とした「災害対策専門研修」マネジメントコースを平成14(2002)年度から実施しています。災害対策実務の中核を担う人材の育成を目的とし、阪神・淡路大震災の教訓を学習することを重点としつつ、最新の研究成果も取り入れ、能力に応じた体系的・実践的なカリキュラムです。これまでに延べ3,757人が修了し、受講者から高い評価を得ています。

今回は、新型コロナウイルス感染症対策として、防災業務初任者から幹部職員までを広く対象に、ベーシック、エキスパートA、エキスパートB、アドバンスト／防災監・危機管理監コースの4コースをオンラインで実施しました。

アンケートでは、「被災者ファースト、戦略的広報、目標管理型災害対応などの災害対応に必須のマインドを習得できた」「被災者、ボランティア、マスコミ等自治体以外のさまざまな視点から被災時の思いについて学ぶことができた。

それに答えるためには、常日頃からの信頼関係が大切であることにも気付かされた」「全庁的な災害対策本部の在り方やこれからの事前の備え、自助共助の醸成など、トップを支え、災害行政をしっかりとマネジメントしていくための職責を再確認した」等の意見を頂きました。



講義の様子

コース名	日程	修了者数
ベーシック	6月1日(水)～3日(金)	117人
エキスパートA	6月7日(火)～10日(金)	54人
エキスパートB	6月21日(火)～24日(金)	43人
アドバンスト／防災監・危機管理監	6月28日(火)～29日(水)	30人
合計(延べ)		244人

### 人と防災未来センター友の会 入会のご案内

- 各種イベントのご案内など、さまざまな情報をお届けします。
- 会員証の提示によりセンターへ無料で入館できるほか、招待券3枚(法人は一口50枚)を差し上げます。
- 年会費＝個人会員 3,000円、法人会員一口50,000円 ※10月以降半額

【問い合わせ】 TEL 078-262-5060(友の会事務局)



**Hem21 NEWS**  
vol.95

令和4年9月発行

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構  
〒651-0073  
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)  
<https://www.hemri21.jp/>

当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理部

TEL 078-262-5580  
FAX 078-262-5587

●研究戦略センター

▶研究調査部  
TEL 078-262-5570  
FAX 078-262-5593

●人と防災未来センター

TEL 078-262-5050  
FAX 078-262-5055

▶学術交流部

TEL 078-262-5713  
FAX 078-262-5122

●こころのケアセンター

〒651-0073  
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2  
TEL 078-200-3010  
FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・  
ご感想を機構までお寄せください